

論文問題

2020(令和2)年度

【注意事項】

1. この問題冊子は「論文」である。
2. 試験時間は120分である。
3. 試験開始の合図まで、この問題冊子を開いてはいけない。ただし、表紙はあらかじめよく読んでおくこと。
4. 試験開始後すぐに、以下の5および6に記載されていることを確認すること。
5. この問題冊子の印刷は1ページから4ページまでである。
6. 解答用紙は問題冊子中央に2枚はさみこんである。
7. 問題冊子に落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所等があった場合および解答用紙が不足している場合は、手をあげて監督者に申し出ること。
8. 試験開始後、2枚ある解答用紙の所定の欄に、受験番号と氏名を記入すること（1枚につき受験番号は2箇所、氏名は1箇所）。
9. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。解答用紙の裏面に記入してはいけない。
10. 問題番号に対応した解答用紙に解答していない場合は、採点されない場合もあるので注意すること。
11. 解答する字数に指定がある場合は、句読点も1字として数えること。英数字を記入する場合は、1字分のマス目に2文字記入すること。なお、解答は1マス目から書き始め、文と文の間に空欄を入れないこと。
12. 問題冊子の中の白紙部分は下書き等に使用してよい。
13. 解答用紙を切り離したり、持ち帰ってはいけない。
14. 試験終了時刻まで退室を認めない。試験中の気分不快やトイレ等、やむを得ない場合には、手をあげて監督者を呼び、指示に従うこと。
15. 試験終了後は問題冊子を持ち帰ること。



〔 I 〕 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

雪は厚く降り積っていて、道は明るかったが靴の裏にたちまち雪がついて一足ごとに滑って歩きにくい。信利は酔いざめの上に、先刻までの話を思い返しては一層寒ざむとしていた。雪だ。お袋の死んだ日も雪が降っていた、と彼も思い出した。

ようやく家に帰りついて、玄関のベルを押したが、誰も開けに來ない。昭子が怒って不貞寝しているのだろう。寝たきり老人を抱えて家庭崩壊の一步手前だと、たった今別れた同僚が言っていたのを思い出し、信利は定期入れに下げてある鍵を出して扉を開けた。

部屋の中は、鈍い蛍光灯の下で二組の夜具がもぬけの殻になっていた。庭に面した雨戸が一枚開けっ放しだ。信利は両手をこすりながら、何気なく庭の方を覗きに行き、彼の父と妻が庭先に抱きあっているのを見て棒立ちになった。が、彼らは抱きあっているのではなかった。妻がその舅を背後から抱きかかえて向うを向っている。長身の茂造を、小柄な昭子が背後から支えていたのだ。二人とも無言で、茂造の足許からほんの一尺ほど先に、白い雪が消えほとほとという音と共に次第に、まっ黒な土の色が丸く現われていた。芭蕉の句に、旅先で馬の尿を聞くというのがあったが、と信利は呆然としながらそんなことを考えていた。降りしきる雪の中で、老人の尿が地に穿った小さな穴は、まるで深い深い暗黒の淵のように見えた。

茂造の小用が終ると信利は反射的に身を翻して階段を駆け上った。こんなことを毎晩させていたのかと思うと、妻に会わせる顔がなかったし、老残の父親の顔も見たくなかった。第一また警察へ突き出せと喚かれでもしたらたまらない。背広を脱ぎ、寝巻と着替えながら、あの芭蕉の句はなんだったろうと思い出そうとしたが、思い出せない。確かに奥の細道にあった筈だと思うのだが思い出せなくて、代りに「むざんやな甲の下のきりぎりす」とか「有り難や雪をかほらす南谷」などという句が出てくる。どちらも芭蕉だけれども、実盛が白髪を染めて奮戦し討死にしたのを詠んだむざんやなの句はともかくも、雪をかおらす南谷は、今見た情景とは無縁であるべきで、この場合の雪は、雪を頂く遠山の雪で、季は初夏だから薫るという言葉が続くのであるのに、今見たばかりの雪と小便からの連想でこの句を思い出したのだとしたら、青年期に俳諧の道にいそしんだのも水の泡というものだ。しかし若い頃には芭蕉などすぐすらすらと思い出せたのに、どうしてあの有名な句が出て來ないのか。

布団に入る前に、信利は昭子に声をかけておくべきだと思った。あれだけの妻の労苦に、何か一言の挨拶はするべきだと思うのに、彼の口から出た言葉は、

「おい昭子、帰ってるぞ」

というぶっきら棒なものであった。

しかしこの不器用な日本男子に、妻は予想外の明るい返事を送ってよこした。

「まあ要領のいい人ねえ」

「すまん、いつも」

「あら、見たの」

信利はその問いには答えず、布団にもぐりこんだ。その弾みに「蚤虱、馬の尿する枕もと」を思い出した。「奥の細道」出羽の山中の宿の侘しさをよんだものである。思い出して安堵した瞬間、信利は愕然とした。近年、彼は物忘れがひどい。思い出すのに時間がかかる。若いときは、決してこんなことがなかった。記憶力には自信があった。こうして物の弾みに思い出すというのは、茂造が

突然昔のことを思い出して、老婆が馬に蹴殺されたと言い出したのと同じ老化現象ではないのか。信利は思わず半身を起し、何か幻聴を聞いたあのような不安に襲われていた。私たち、もう始まっているのかしらと妻が言ったのも思い出す。度忘れとか、物忘れとかいうけれど、これはもう老化の前駆症状なのではないか。いや老化現象そのものではないのか。

(出典 有吉佐和子「^{こうこつ}恍惚の人」, 新潮社, 1982)

- (1) 信利に下線部(A)のように見えたのはなぜか, 100字以内で述べなさい。
- (2) 本文をふまえ, 人が老いることによって生じる課題について, 看護職を目指すあなたの考えを450字以内で述べなさい。

〔Ⅱ〕 がん対策に関する日本国民の意識について、以下の図を読み取り、次の問いに答えなさい。

(1) 図1から読み取れる内容について、150字以内で述べなさい。

(2) 図2から読み取れる内容を述べ、(1)で読み取った内容をふまえて、我が国においてがん検診受診を効果的に促すために必要と考えられる方策について、500字以内で論じなさい。

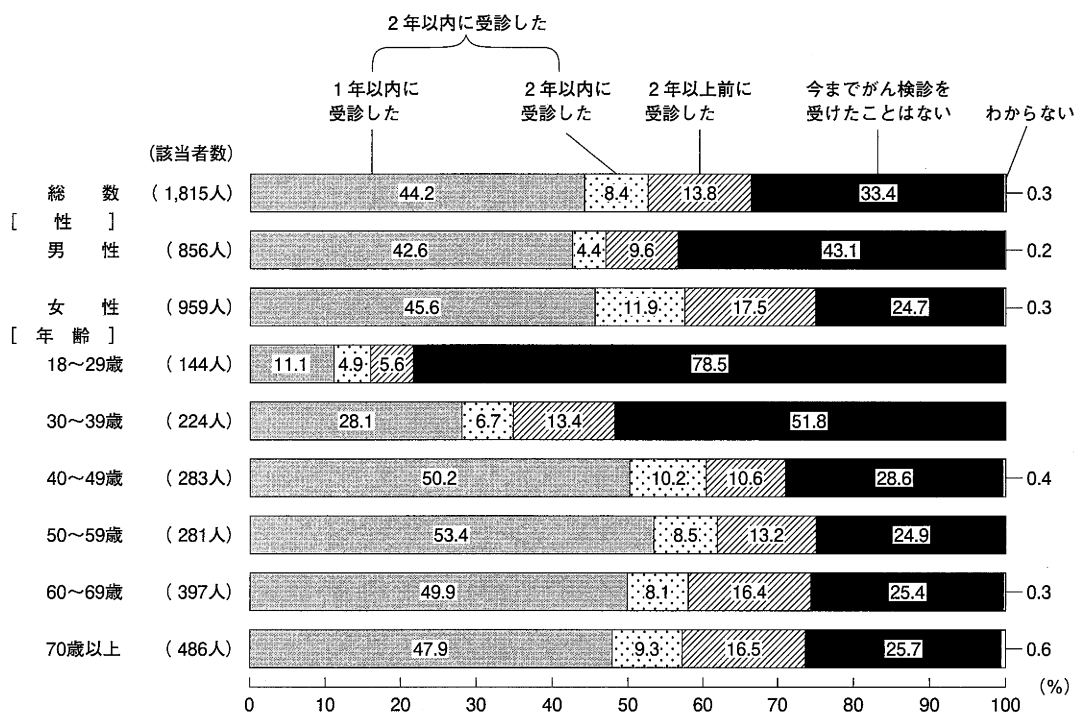


図1 胸や胃のレントゲン撮影やマンモグラフィ撮影などによるがん検診の受診率
全国18歳以上の日本国籍を有する者3,000人を対象。有効回収数1,815人。

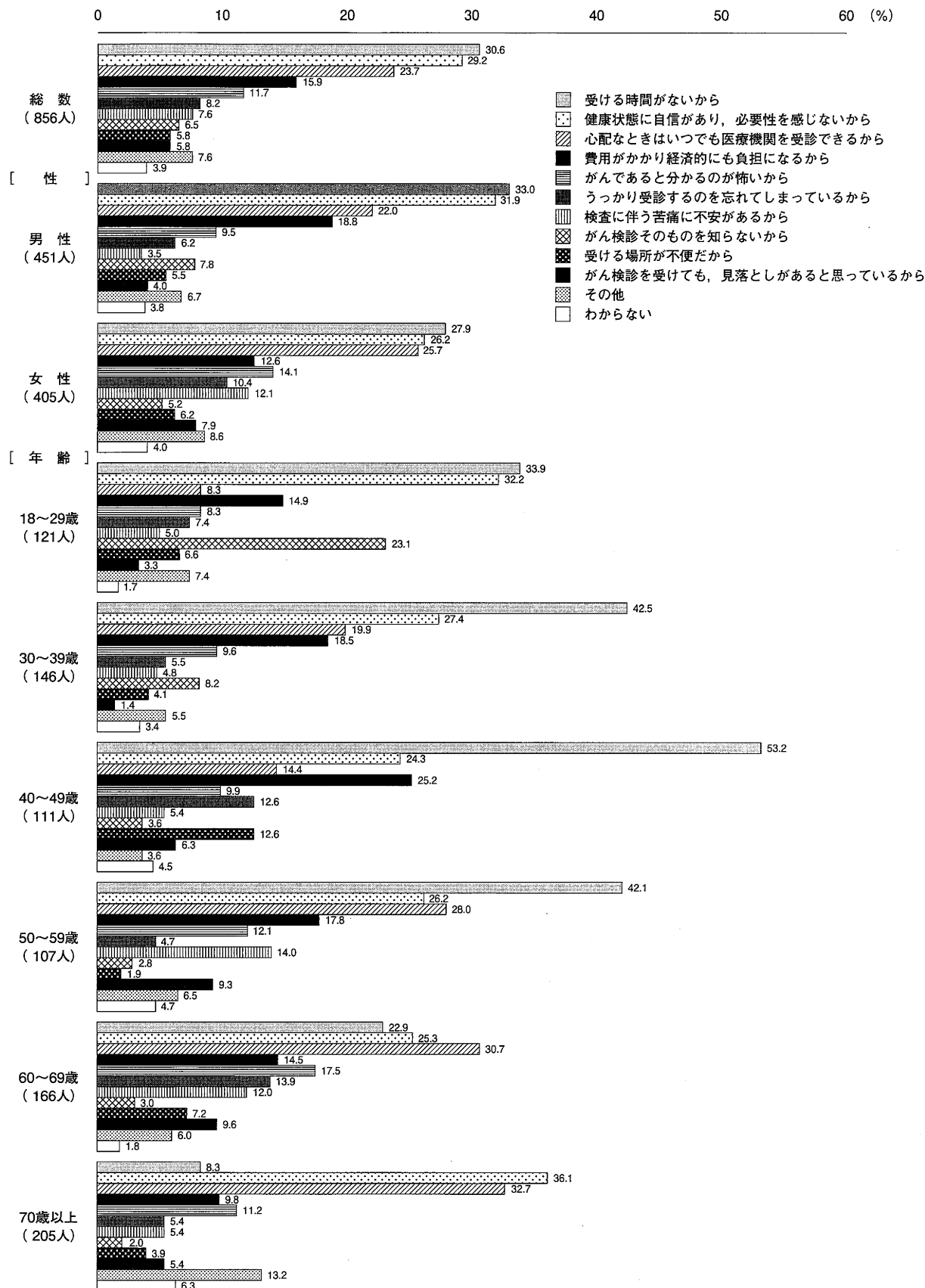


図2 これまであるいは最近、がん検診を受けていない理由

胸や胃のレントゲン撮影やマンモグラフィ撮影などによるがん検診を、「2年以上前に受診した」「今までがん検診を受けたことはない」と答えた人を対象とした。複数回答。

出典 内閣府：がん対策に関する世論調査(平成 28 年 11 月調査)